

視点(1079)

まちづくりと新しい駅機能の創造(その4)!!
 一駅と街が一体化した「岡山駅前商業街区」—
 (「駅美流」No. 25 Spring 2009の六車秀之連載原稿より)



岡山駅(山陽新幹線と山陽本線等の複数の路線からなる駅)は、乗降人口11.9万人と駅商圈151万人の集客力を基軸として、駅ビル(駅上)の「さんすて岡山」と駅マエ(駅前地下街)の「岡山1番街」を起爆剤として岡山駅周辺商業街区のまちづくりとして寄与しています。

岡山中心市街地は、岡山駅を中心とした「駅前商業街区」と天満屋を中心とした「表町商業街区」に二眼レフ化して、お互いに切磋琢磨して健闘しています。

岡山駅前商業街区には、「さんすて岡山」(駅の利便型商業とファッション専門店の混合型駅ビル)と「岡山一番街」(岡山中心市街地No.1の専門店街)以外に高島屋百貨店、岡山オーパ(ファッションビル)、ビックカメラ(マルチメディアのメガストア)、ドレミの街(SC)、さらにはビブレA・B館(ファッションビル)とストリート型の地元商店街が集結し、1つの街区を形成しています。

岡山駅を基軸都市、点(店舗)から線(ストリート)、さらに面(街区)まで拡がりのある“街”ができあがり、文字通り岡山中心市街地が持つ表玄関としてのまちづくり型商業街区を形成しています。駅が街の拡がりともまちづくりに役だっているモデルです。

<岡山駅周辺の商業施設>

- ① 駅上商業街区「さんすて岡山」 ② 駅前商業街区「岡山一番街」 ③ 高島屋岡山店



- ④ 岡山オーパ



- ⑤ ビックカメラ



- ⑥ ホテルグランヴィア岡山



(株)ダイナミックマーケティング社⁺³
 代表 六車 秀之